

ファイヤーサイドミーティング

1・2・5班 各班長発表



1班 参加者10名
堅田尚生会員



参加頂いた方のお話の中から抜粋して報告したいと思います。

- ・良かった事、また皆さんにご迷惑をお掛けした事等色んな反省点がありますが、今後のロータリー活動において、その3年間で培った体験、経験を生かし田辺ロータリークラブの皆さんにフィードバックして行きたいと思っています。
- ・今はある程度ざっくりばらんで良いと思う。
- ・例会時には先輩方皆さん何かしら威厳があり会場内もビリッとした空気が漂っていたような気がする。はたして今はそのような雰囲気があるのかどうかと思う。
- ・ロータリー運営含め全般的にアメリカンナイズされてきている。
- ・良いか悪いかは別として、我々例会においても、もっと日本人らしく精神内面を修養するような内容の卓話があっても良いと思う。
- ・機会があれば積極的に他の例会に出席し見聞を広げられたらいいのではと思う。
- ・後輩は先輩にもっと相談したり意見を仰いだりしてもいいのではと思う。
- ・今は中堅会員としての立場を十分踏まえ、先輩後輩のパイプ役としてクラブ運営に携わって行きたいと思う。
- ・世代交代もやむないところで、会員増強も積極的に行っていかなければならないのですが、一方でせっかく入会した会員が疎遠になり退会していくのは、我々にも責任があるのではないかと思います。



5班 参加者17名
植田英明会員



田辺RCは、昭和28年1月8日に創立されロータリーの友発刊と同じ年に誕生しました。国内創立順位は95番目でチャーターメンバー25人で発足。

50周年時の4名のチャーターメンバー 畑地實さん、多屋平夫さん、小野寺裕さん、榎本三郎さん、そして実質チャーターメンバーである橋本さん、そして脇村孝三郎さんに座長、阪井さんに司会をお願いしてチャーターメンバーとの懇談会を行いました。50周年の資料に入っています。

伝統あるクラブなので、親子3代にわたって入会している人が多く、2代にわたる人は15、6人ぐらいいます。

入会して2年が経つが歴史の長さを感じている。そうそうたるメンバーの中に入れていただいて、ただただ恐縮するばかりです。この場にいらることがありがたいと思います。

田辺RCの発展に大事なことは歴史をつくった先輩方に敬意を表し尊敬の念を持つことが大事であると思っています。歴史をみんなをよく勉強することが大事で全員で協力してロータリーギアを永続的に回していかなければいけないと思います。

田辺RCは設立当時玉置病院隣に市役所があってその隣にあった公会堂で例会を開催していた。本当に立派な人の集まりであった。昔は威厳と風格のあるクラブで旦那衆でないと入れない雰囲気があった。みんなロータリーに入りたいと思ったのです。東京クラブは会報(昔は週報と言った)を英語で書いて配ったほどで、そういう人が集まるまさに日本の経営者のあこがれの集団であった。

田辺RCの良き伝統を守っていくために、流れは変えてはいけないと思っています。記念誌委員会のメンバーになると普段お目にかかれぬもの触れることができ本場のロータリーの歴史を学ぶことができる。

昔の奉仕活動は今とは桁違いで広島クラブは公会堂を寄付したほどです。

ロータリーは影ながら活動すべきで、ライオンズみたいに派手な宣伝はいたらないと思います。ライオンズと競争する必要はないと思います。

また地方自治体が社会奉仕に力を入れ出したので、ロータリーが目立つのは難しくなってきた。昔のガバナーと言えば京大総長や大企業の社長歴任者などの人が就任していたのでとにかく話がおもしろかった。

マンモスクラブで会員が減少しない安定したすばらしい組織であると思っています。人を集めるために広報を強化することには反対です。歴史のあるクラブなのだから、品格、風格を大事にしたいです。宣伝の強化が会員数維持に必ずしも有効ではないと思います。入らせてもらうことに意義があるクラブにしたいです。

在籍7年になるが田辺RCが70年、80年と続いていくには田辺の街の発展が欠かせないと思います。広報不要の意見に対しては人を集めるにはやっぱり広報強化が必要だと思います。

田辺RCの発展・維持には会員の増強が必要で候補者にもっとアプローチをしたほうが良いと思っています。

量か質かの問題については、ドイツかスイスの話ですが会費を倍以上にして会場を一流ホテルに変更したところ会員が増えてきた事例もあり、難しい問題です。

入会后少し経過したところに野球部が出来て入会し、懇親会などをおしてロータリーの活動が非常に楽しくなりました。

例会を欠席される人に対して執行部はもっと感心をもって声をかけるなどの対応をすべきと感じています。なぜなら声かけがなかったら人はつい甘えがでてしまう。とにかく例会の欠席者を減らしたいと思います。

出席率80%以上を出すのがここ数年難しくなっています。

出席率を上げていくためにはクラブの代表である会長が休んだ人に声をかけて安易に欠席を許さないようにすべきです。メンバーを常に気に掛けて心の通った交流をして欠席をさせないように気をつけました。

ロータリーに入った限りは自覚をもって昼の例会に出席してほしい。また、勧誘するときに出席の厳しさについてきっちり説明していないことが欠席が多い原因の一つになっていて、入会したときから自覚が足りないから容易に休まれる人がいるのだと思います。

昔は出席ルールが厳しかったから出席率が高かったと思います。今はルールが甘いから出席率が低いわけで、それは仕方ないと思います。

入会して20年が経つ。入ったときは厳しい人が多くいて昔は緊張感があった。この緊張感の無さが出席率の低さにも影響しているように感じます。

だんだん卓話を聞くのが楽しみになってきて、最近では野球とゴルフの活動に楽しく参加しています。出席率をあげるには、楽しみを探ることが大事だと思います。

田辺はまゆうRCを創立するときに、例会の開催時間を昼にするか夜にするかという議論になったが、夜しか参加できないのはロータリアンではないというのが大体の意見であった。それは何故かというところロータリアンは昼に時間のつくれる(余裕のある)人でないといけないという考え方です。当時は夜に開催するクラブが増えてきていて近隣にはそういうクラブが無かったこともあり、はまゆうRCは夜開催することに決まったのです。

ロータリーの活動は自らの修行の場とっていて、教えてもらうことも多いです。委員会活動には主体的に参加するようにしています。

田辺クラブの歴史を学ぶべきという意見が多く、また出席率の低下が気がかりです。まず出席することからすべては始まります。

田辺クラブの歴史と伝統から多くを学びロータリー活動を行う事により100周年へと繋げていきたい。



2班 参加者20名
長井保夫会員



冒頭、中松会長及び新井情報委員長より、「まずは会員其々のクラブへの想いや感想等を自由に語って頂き、相互理解の機会とし、クラブ100周年に向けての推進力としていきたい」との開催趣旨説明がありました。

各位のご発言を在籍暦分類し、抜粋してご報告と致します。

《在籍暦の長い会員》

入会当時は怖い先輩方が大勢おられ、緊張して例会に出席をした。例会時には常に先輩の傍に座らされ、会報の誤字、服装或いはロータリーソング唱歌指導等、厳しい指導を受けた。

こうした厳しさがクラブの一体感を醸成し、ぶれないロータリー思想の継承に繋がったものと思う。最近のクラブは緊張感が欠落している。もう少し会の運営に知恵を出すべきではないだろうか。

《在籍暦の中間会員》

各委員会活動をしているうち、知らず知らずにロータリーの魅力が解ってきた。

なによりも多くの方々を知り合えたことが、私にとっての財産であり、感謝をしている。

ロータリーを辞めた方から「辞めたらあかんで、いるだけでも勉強になる」と言われ、今になってその言葉が実感できる。

ロータリーの基本は親睦である。親睦活動の充実こそが奉仕に繋がる。

例会の運営に関しては、もう少し厳格性があっても良いのでは。

《在籍暦の浅い会員》

なにも解らずに入会しましたが、いろんな年代の方々と接する機会が得られたことは良かった。

固いというイメージがあったが、開かれたクラブだと思う。逆に物足らなさを感じるのは、何もしいでも会員として通用することである。

奉仕活動については、他の団体に先を越されているように思う。

何をしたいのか解らない。明確に指示して引っ張ってほしい。

会員勧誘の際、ロータリーを簡潔に説明出来ない。教えてほしい。

皆出席は時間的にも難しい。例会の時間等を見直し、皆出席をあまり求めず、自分なりに出席できるときで良いと思う。

東京クラブにメーキャップした際、上場会社の経営者の方がテーブルマスターとしてビジターの世話をしてくれた。ロータリーの原点を感じた。

